



リスク学からみた視点

村山武彦

一般社団法人 日本リスク学会

東京工業大学

1

最近の潮流と関連したコメント（1）

- リスク学研究における一潮流
 - 集団リスクから個人リスクへ
 - ライフスタイルや価値観の多様化が背景
 - 集団としてみたリスクとともに、地域的人的属性を特定していった場合のリスクをみる視点が強調される傾向
- 最適化の視点（2.5「最適化の基本原則」に関連）
 - 国、自治体、コミュニティ、家族、個人など
 - ALARAは各階層で考えられ、階層間で必ずしも整合しない可能性
 - 階層を超えた対話の必要性とともに、地域的人的属性に即したALARAの検討が行える仕組みの検討
 - 個人レベルに近づくほど情報の扱いに注意が必要

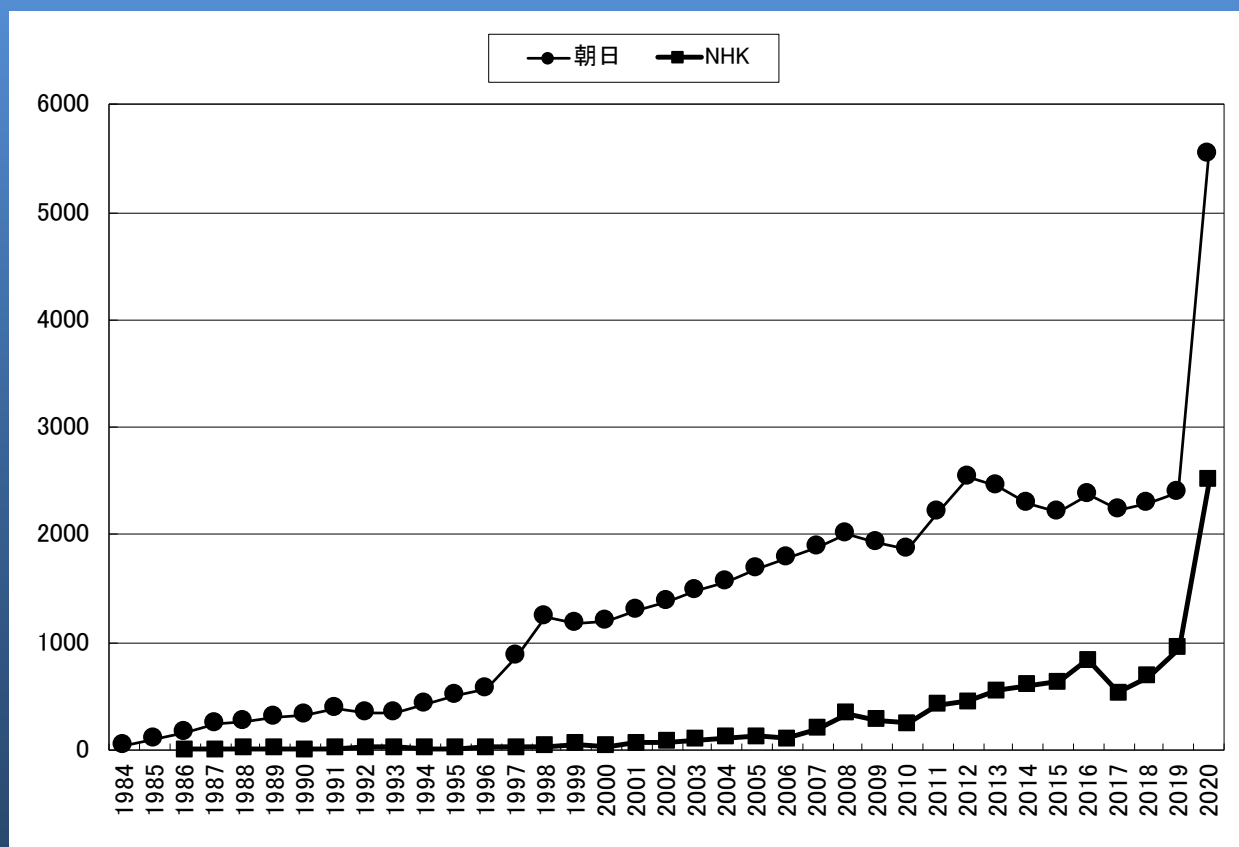
2

最近の潮流と関連したコメント（2）

- コミュニケーションとステークホルダーの関与（3.2 に関連）
 - コミュニケーションに期待される効果
 - リスクに関連した**情報提供**
 - 関係者の**見解の共有**（相互理解≠見解の一致）
 - よりよい取り組みに向けた**合意形成**
 - 意思決定のためのステークホルダー関与の場面



3



「リスク」(見出し、本文)を含む記事、ニュース数の推移
(朝日: 聞蔵II、NHK: G Search)

4

COVID-19の経験を通じた リスクへの社会対応

- 「リスク」という語の普及
 - メディアの捉え方の変化
 - 一般市民は？（ソーシャルリスニングの検討）
- ワクチン接種をめぐる議論を通じたいくつかの観点
 - リスク-ベネフィット論の社会化
 - 社会心理学の分野における調査にみる接種に対する多様な立場の存在
- 複合リスクへの事前対応の兆し
 - 新型コロナウイルス感染拡大時における自然災害時の避難のあり方（NaTechの一つのパターン）
 - 事故と放射線リスクとの関係
- リスク管理と危機管理の重層化

リスク管理ベース



危機管理ベース

（可能性と結果の重大性との関係を考慮）

（最悪の事態を考慮）